

2026年4月2日
一般社団法人Jミルク

2026年度(1回目)Jミルク事業に関する事業協力者の募集について

一般社団法人Jミルクは、独立行政法人農畜産業振興機構が実施する「令和8年度国産牛乳乳製品の需要拡大等事業」の一部事業を活用し、国内におけるヨーグルト(発酵乳規格)の消費拡大に向けた取り組みを実施します。ついては、当該事業を実施にあたり、事業協力者を募集いたします。本事業への協力をご希望される方は、下記の要領にてご応募ください。

記

1. 趣旨

日本の酪農乳業は、脱脂粉乳とバターの需要の不均衡により脱脂粉乳の需給緩和状況が続いており、生乳需給の改善に向けた環境整備及び国産乳製品等の需要確保が急務となっています。このため、一般社団法人Jミルクは、脱脂粉乳(及び脱脂濃縮乳=無脂乳固形分)の需要確保を図るべく、脱脂粉乳等の最大の需要先であるヨーグルトの消費拡大を図る取り組みを実施します。

2. 対象事業

別紙1)「2026年度Jミルク事業における事業協力者関連事業」の通りといたします。

3. 応募資格

本事業を実施する経験および能力を有し、業務および経理等に関して適切かつ効率的な管理体制を有すること。

4. 応募手続き

- ・募集期間:26年4月2日(木)~26年4月15日(水)17時まで
- ・応募方法等:別紙2)「2026年度Jミルク事業における事業協力者関連事業に関する参加表明書」と、事業に関する企画提案書(以下「企画提案書」という。)1部を添付し、募集期間内に「応募・照会等窓口」へ電子メールにてご提出ください。
- ・その他:応募に係る費用は一切支給いたしません。

5. 企画提案書

企画提案書には、以下の項目を記載してください。

書類の様式は問いませんが、A4版15頁以内(表紙、会社概要、見積書、関連事業の実績、その他参考となる資料は含まず)にまとめてください。

① 実施計画、実施方法および実施体制

事業ごとの実施計画、内容、スケジュールを記述してください。また、社内の実施体制、責任者、必要に応じて主要なクリエイターおよびライター、パートナー会社等を明確にしてください。

企画提案にあたり、補助金適正使用の観点から、キャッシュバックCP等の消費者に直接金銭が還元される施策並びに各種CM・イベントへのタレント出演費等は「補助対象外」となるので注意のこと。

※ただし、補助対象外費用が発生しない枠組みでの提案自体を妨げるものではない。当該費用の扱いについて不明な点があれば事務局に問い合わせ願います。

②事業に必要な経費およびその積算内訳(見積書・消費税込)

企画費、管理費等については、その合理的根拠(例:企画および管理に必要な作業量やその単価等)を明確にしてください。

制作物の著作権は原則としてJミルクに帰属し、Jミルクが認めた関係者の使用など二次利用を妨げない権利処理を前提としてください。

そのため、二次利用の範囲を明記し、同様に二次利用不可の場合も明記をお願いします。

③関連事業の実績

事業ごとに類似する実績があれば記載してください。

④その他参考となる資料

提出された企画提案書は、以下の通り取り扱います。

- ・企画提案書は返却いたしません。
- ・企画提案書は、採点等、本事業にかかる事務手続き以外の目的に使用いたしません。

6.事業協力者の選定等

(1)一次審査

提出された企画提案書について、選定委員による一次審査を行い、最終選定候補(3社)を決定する。なお、一次審査結果については、2026年4月17日(金)までにすべての応募者に通知する。

(2)二次審査(プレゼンテーション)

一次審査を通過した3社について、下記日程にて企画提案書のプレゼンテーションを求める。

- ・開催日:2026年4月24日(金)
- ・時間:13:30~15:50 各社持ち時間 40分(質疑応答含む)
- ・会場:一般社団法人Jミルク会議室(リモート対応可)

(3)最終審査

二次審査実施後、選定委員による最終審査を行い、事業協力者を決定。

① 選定の基準

企画評価及び価格評価を含めた総合評価とし、総合評価の最も高い者を選定する。

② 最終選定結果の通知

最終選考通過者に対し、2026年4月27日(月)までに最終選定結果を通知する。

7.事業実施等

事業実施内容は、企画提案内容を両者で協議のうえ決定いたします。実施期間は、契約締結日から2027年3月末日までといたします。

8.応募・照会等窓口

本事業の詳細に関するお問い合わせは、下記宛てにお願いいたします。

応募書類は、担当者2名へ電子メールにてご提出ください。

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1-20 御茶ノ水安田ビル 5 階

TEL:03-5577-7494

一般社団法人 J ミルク コミュニケーショングループ

林 雅典(m-hayashi@j-milk.jp)

金山 純一郎(j-kanayama@j-milk.jp)

以上

2026年度Jミルク事業における事業協力者関連事業(1回目)

事業No	実施項目	事業目的	実施内容	実施期間	主なターゲット	訴求する主な価値	企画・応募にあたっての留意点	予算の上限(千円・税込)
1	<p>国産脱脂粉乳(及び脱脂濃縮乳=無脂乳固形分)の過剰在庫対策として、脱脂粉乳等の最大の仕向け先であるヨーグルトの消費拡大にむけた各種プロモーションの企画立案及び実行</p> <p>(25年度に策定した28年度を見据えた「中長期事業戦略」の実行)</p>	<p>国内の酪農乳業においては、脱脂粉乳とバターの需要不均衡により需給緩和の状況が継続しており、生乳需給の改善および国産乳製品の需要確保が喫緊の課題となっている。</p> <p>本事業では、脱脂粉乳等の主要な仕向け先であるヨーグルトの消費拡大を通じて、当該課題の解決に資することを目的とする。</p> <p>あわせて、ヨーグルトを従来の健康食品としての位置づけにとどめるのではなく、日常生活に自然に取り入れられる「生活適合食品」として再定義し、特に若年層を中心とした喫食者の拡大(間口拡大)および喫食頻度の向上(奥行拡大)を図ることにより、中長期的な需要基盤の強化を目指す。</p>	<p>●「牛乳でスマイルプロジェクト」の下での取り組みであるヨーグルトの消費拡大について、25年度下期に策定した「中長期事業戦略」に基づき、26年度夏期(7~9月)及び冬期(12~3月)において展開する各種プロモーション施策の企画立案および実行を行う。</p> <p>あわせて、施策の効果検証や市場環境の変化に応じて、適宜「中長期戦略の見直し」も行う。</p> <p>●本事業においては、ヨーグルトを従来の「健康食品」という枠組みから日常生活に自然に取り入れられる「生活適合食品」へと再定義し、特に若年層を起点として、喫食者の拡大(間口拡大)と喫食頻度の向上(奥行拡大)を同時に実現することを基本戦略とする。あわせて、生活シーンに根ざした需要喚起と実購買への接続を一体的に設計する。</p> <p>具体的には、以下のような「中長期事業計画」の観点を踏まえた統合的なコミュニケーション施策を実施することとする。</p> <p>(1)ヨーグルトの価値の再定義および認知拡大 従来の健康価値訴求に加え、日常生活の中での利便性や楽しさ、情緒的価値を含めた新たな価値を提示し、生活者にとっての位置づけの転換を図る。</p> <p>(2)生活シーン起点での喫食機会の創出 時間帯(朝・間食・夜)、季節、生活行動(食前・リフレッシュ等)に着目し、具体的な利用シーンを設計・提示することで、無理なく取り入れられる新たな喫食習慣を提案する。</p> <p>(3)他食品との組み合わせによる需要拡張 既存の食習慣との親和性を高めるため、他食品・メニューとの組み合わせ提案を行い、喫食のハードル低減と新たな需要創出を図る。</p> <p>(4)実購買につながる導線設計 流通・小売、外食、デジタルメディア等の多様な接点を連動させ、認知から購買、さらには継続利用までを一体的に設計した施策を展開する。</p> <p>(5)ターゲット戦略の明確化 若年層を主要ターゲットとしつつ、ライトユーザーおよび既存ユーザーそれぞれに対して最適なアプローチを設計し、裾野拡大と定着化の両立を図る。</p> <p>(6)中長期的視点での施策展開(持続可能性の確保) 各種施策、キャンペーンの立案にあたっては、単年度の一過性の施策にとどまらず、ユーザーの継続的な行動変容および習慣化につながるよう、次年度以降への展開も見据えた再現性・発展性のある取組とすること。</p>	<p>契約日~ 27年3月末日</p>	<p>酪農乳業関係者、消費者</p>	<p>ヨーグルトの価値理解(素材・栄養・健康機能など)深耕と購買促進</p>	<p>・企画提案にあたり、補助金適正使用の観点から、キャッシュバックCP等の消費者に直接金銭が還元される施策並びに各種CM・イベントへのタレント出演費等は「補助対象外」となるので注意のこと。※ただし、補助対象外費用が発生しない枠組みでの提案自体を妨げるものではない。</p> <p>・単なる認知向上にとどまらず、実際の喫食機会の創出や購買行動の喚起につながる具体的かつ実効性の高い施策とすること。</p> <p>・他食品との組み合わせや生活動線への組み込み等、具体的な行動変容を促す工夫を盛り込むこと。</p> <p>・流通・外食事業者、メディア等との連携を含め、消費者との多様な接点を活用した統合的な施策設計とすること。</p> <p>・実施体制、詳細スケジュール、KPI設定および効果検証の方法について、具体的かつ実現可能な内容を明示すること。</p> <p>・制作物の著作権は原則としてJミルクに帰属することを前提とし、二次利用が可能な権利処理を行なうこと。</p> <p>・補助事業の趣旨を踏まえ、透明性・妥当性のある経費計上および執行が可能な内容とすること。</p> <p>・次年度以降の施策展開に向けて、今年度の検討結果・成果等を次年度以降の事業実施者等に引き継ぐことが想定されるため、これを妨げないよう配慮するとともに、再現性・汎用性の高い設計とすること。</p>	<p>570,000</p>

一般社団法人J ミルク 専務理事 殿

住所
 商号または名称
 代表者氏名

2026年度(1回目)J ミルク事業における事業協力者関連事業に関する参加表明書

標記、事業に係る企画提案書を下記の通り提出します。

記

応募事業 応募する事業に○を記入。

応募事業 (○を記入)	No	実施項目
	1	国産脱脂粉乳(及び脱脂濃縮乳=無脂乳固形分)の過剰在庫対策として、脱脂粉乳等の最大の需要先であるヨーグルトの消費拡大にむけた各種プロモーション展開事業(25年度に策定した中長期戦略案の実行と見直し)

添付書類:企画提案書 1部

【連絡先・担当者】

氏名(ふりがな)	
所属・役職	
電話番号	
E-mail	

以上